

小4～中2は秋以降が超重要!そのワケは…?

中2:英数いずれも入試最頻出単元が揃い踏み

夏の大会を最後に中学3年生が部活を引退し、9月から新しい体制で部活が始まるということも少なくありません。部活動の体制が変わると、レギュラーに抜擢されたり、部員をまとめる立場になったりして、人間関係が変化することもあります。また、11月あたりには新体制での公式戦、新人戦があつたりして部活中心の生活になり、勉強が疎かになりがちです。一方、高校入試にも直結する単元を学習する時期でもあり、受験。高校進学も視野に入れ始めなければなりません。“中だるみ”と揶揄されがちな学年ですが、だからこそグッと踏ん張って乗り越えることができれば後のアドバンテージとなるに違いありません。

中1:最もつまずきやすく成績の急降下も…

夏休み明けは授業日数が多く、テスト範囲も広がります。また、中学校にも馴染み学校生活が楽しくなってくる時期でもあるので、どうしても勉強以外に興味に向き始める時期でもあります。そのため、この時期に成績が急降下してしまう子が多い傾向にあります。また、5教科全ての内容が一気に難しくなり、非常に重要な単元が続きます。ここでつまづくとその後の中2・中3の学習にも大きく影を落としてしまいます。

小6:中学進学を見据えた学習のスタートを

中学進学に備え、そろそろ準備を始めるべきです。中学入学前に身に付けておきたい基礎学力の例を以下に示します。少しでも意識してもらい、年度下半期の勉強に役立ててほしいと思います。

- ① 小数・分数の計算力
- ② 算数の代表的な文章題を解く力
- ③ 英単語のスペルを書く力
- ④ 語彙力(日本語)
- ⑤ “ちゃんと読む”の習慣化

小4・小5:学力格差の分岐点、“算数の壁”

算数には「問題レベルが急に難しくなる段階」があります(小4の「がい数」「面積」、小5の「割合」「速さ」など)。それがこの秋以降なのです。このとき、今までと同じようなやり方で算数と向き合っていると置いていかれる可能性が高まります。早い段階で、「文章を理解する力、図解して考える力」をつけるなどを意識させましょう。